

平成30年度 日本大学スポーツ科学部個人研究費 研究実績報告書

所属： スポーツ科学部 競技スポーツ学科
 資格： 教授
 氏名： 清水 享

研究課題		東アジア周縁部の祭祀と経典テキストの歴史学、文化人類学的研究
報告の概要	研究目的及び研究概要	<p>研究目的 本研究では中国雲南省・四川省に居住する彝族が有する彝文字によって書かれた教典テキストの分析を進める。また彝族の宗教職能者である「ピモ」がこの教典テキストを用いて祭祀活動を行っており、その祭祀活動についても分析を進める。そして彝文教典テキストや「ピモ」の祭祀活動の歴史的变化、文化変容、社会的役割の変遷などを多角的に把握し、その実態や構造などを明らかにする。</p> <p>研究概要 平成30年8月から9月にかけて中国四川省、雲南省及び北京を訪問した。はじめに四川省成都に位置する四川省档案馆にて、彝族に関わる档案についてその目録の調査を進めた。成都ではまた彝語・彝文研究の中心の一つである西南民族大学を訪問し、四川の彝文研究者であるモンツホ氏と彝語・彝文・彝文教典テキストについて意見交換を行なった。雲南省昆明では雲南民族大学を訪問し、雲南の彝文研究者である黄建明氏と彝語・彝文・彝文教典テキストについて意見交換を行なった。北京では主に彝語・彝文・彝文教典テキストに関する文献や論文の収集を進めた。</p>
	研究成果	<p>西南民族大学のモンツホ氏からは台湾中央研究院所蔵の彝文文献の収蔵時期についての問題が明らかとなり、雲南民族大学の黄建明氏からは彝族および「彝語支」の言語グループ全体の「指路経」教典テキストの総合的研究の重要性の指摘があり、いずれも今後検討していかなければならない研究課題となった。</p> <p>彝語・彝文の辞書類について昨年度東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所の研究会において口頭で報告を行なった。この口頭で報告した内容にさらに分析を加え、彝語・彝文のおおよそ30点の辞書を比較考察した論考を2019年2月に刊行された『アジア遊学』231号に発表した。今回の『アジア遊学』は「中国雲南の書承文化 記録・保存・継承」をテーマとした特集であり、本論考は雲南の多様な言語文字文化の総合的研究の一端を担ったものであった。内容としては彝語・彝文における各地域間の辞書類の内容の差異の大きさを指摘したものであり、それまでほとんど手をつけられていなかった彝語・彝文辞書研究の端緒を開いた形となった。</p> <p>また中国語の知見を活かし、明治大学商学部石井知章教授の要請により『日中の非正規労働をめぐる現在』という論文集の論文翻訳も行なった。</p>
研究業績	・論文および著書 著者名・論文標題・雑誌名・査読の有無・巻・発行年・ページ数	清水享「彝語・彝文の辞書について」、『アジア遊学』、査読無し、321号(「中国雲南の書承文化 記録・保存・継承」山田敦士編)、2019年、p39-53、勉誠出版
	・学会発表等 発表者名・発表標題・学会名・発表年月日・発表場所	なし
	・その他 *学会・競技団体報告書など 著書名・標題・掲載誌名 発表年月・発行所 *講演会、研究会、研修会、セミナー等での講演発表 発表者・発表年月・題目名・講演会名 *社会貢献活動等	<p>[翻訳] 常凱・鄭小静「第8章 雇用関係か協力関係か」、石井知章編著『日中の非正規労働をめぐる現在』、2019年、p105-127、お茶の水書房 呂学静「第12章 中国新雇用形態と社会保険制度改革」、石井知章編著『日中の非正規労働をめぐる現在』、2019年、p185-195、お茶の水書房</p>